

# 株主通信

第100期 中間期

(2025年4月1日～2025年9月30日)

**JANOME**

証券コード：6445

株式会社ジャノメ



Bobinage famille (ポビナージュファミリー) 新潟

長期ビジョン

つくる歓びを伝える会社



平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第100期中間期（2025年4月1日から2025年9月30日まで）の事業の概況についてご報告申し上げます。

当中間連結会計期間における世界経済は、米国においては関税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動や物価上昇率の高止まり、金融政策動向など、依然として不安定な状況が続きました。アジアではインドが内需の拡大に支えられ、引き続き景気拡大傾向を示す一方、中国経済は足踏み状態となりました。また、欧州経済は持ち直し基調となっているものの、物価高の長期化や地政学リスクによる先行き不透明感は払拭されませんでした。

国内経済においては、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられましたが、雇用・所得環境の改善等により個人消費は底堅く推移いたしました。

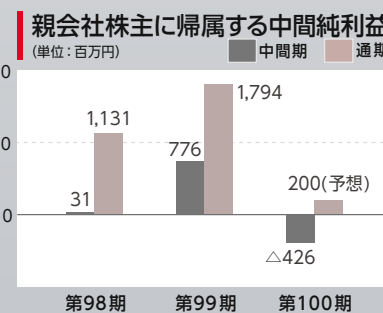
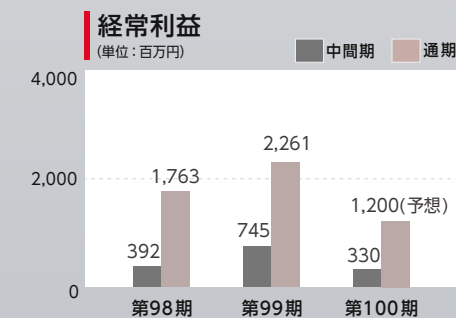
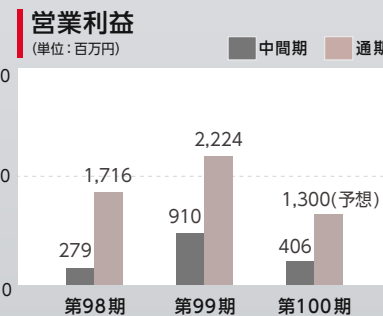
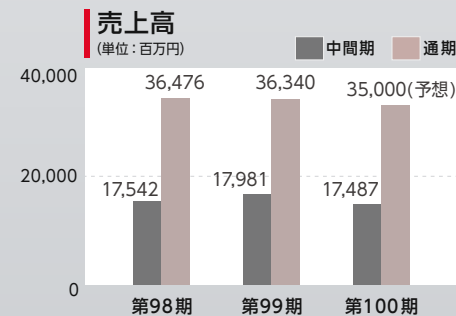
このような状況の中、当社グループでは、引き続き積極的な販売活動及び製品ラインナップの充実、製造原価の低減に取り組むことにより、収益性の改善に努めてまいりました。しかしながら、当社グループを取り巻く経営環境は厳しく、その結果、当中間連結会計期間の売上高は17,487百万円（前年同期比493百万円減）、営業利益は406百万円（前年同期比504百万円減）、経常利益は330百万円（前年同期比414百万円減）となりました。

一方で、資本効率向上に向けた保有資産の見直しを実施し、非事業用資産等の売却を推し進めました。その結果、親会社株主に帰属する中間純損失は426百万円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益776百万円）となりました。

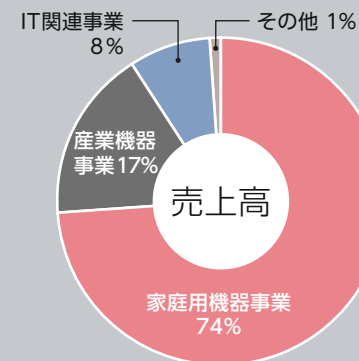
当社グループは、今後ともみなさまからいただいた信頼を糧に、長期ビジョン「つくる喜びを伝える会社」の実現に向け、中期経営計画を着実に実行しつつ、企業価値向上に努めてまいりますので、株主のみなさまにおかれましては、変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

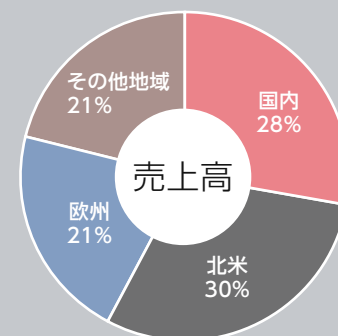
齋藤 真



### セグメント別売上高構成比



### 地域別売上高構成比



## 家庭用機器事業

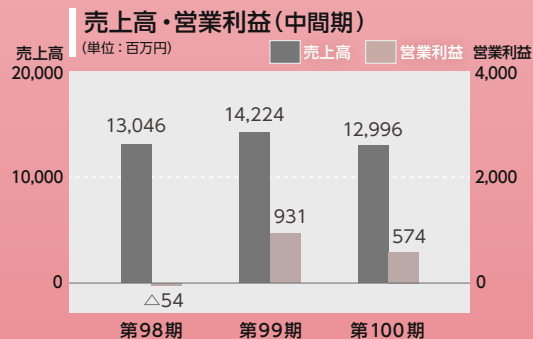
ミシン等の家庭用機器の製造・販売

海外においては、北米を中心に積極的な販売活動やヨーロッパ最大級のキルトイベントや中国で開催された国際的な縫製機器の展示会に出展する等、ブランド認知の確立を図るとともに、顧客との直接的なコミュニケーションの強化、新機種投入による販売拡大に努めました。しかしながら、アジア市場における前期好調の反動減や、欧州市場における厳しい競争環境の影響等を受け、販売は苦戦を強いられました。

国内では、海外と同様に新機種投入による販売拡大、サステナブルをテーマに老舗呉服店とのコラボワークショップを当期も開催し、伝統文化と現代のソーイング技術を融合させた価値提案を行いました。さらに、ジャノメ公式オンラインショップ「Sewing Marché (ソーイングマルシェ)」をオープンし、オンラインを通じた販売チャネルの拡充を進めました。学校販売においても、引き続きサポート体制を強化し、

教育現場でのニーズに応える取り組みを推進しました。

家庭用機器事業全体としては、海外をはじめとした厳しい市場環境継続の影響を受け、売上高は12,996百万円（前年同期比1,227百万円減）、営業利益は574百万円（前年同期比357百万円減）となりました。



セシオデイリー 1000(2025年発売)



## 産業機器事業

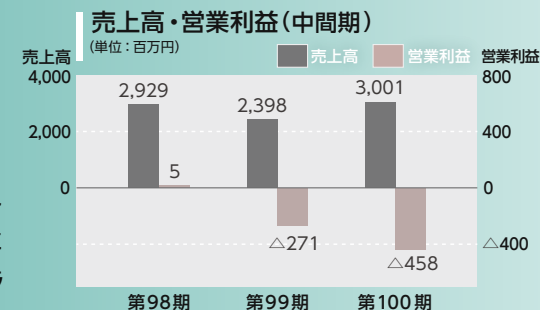
卓上ロボット・サーボプレス・  
ダイカスト鑄造品等の産業機器の製造・販売

ロボット・プレス事業においては、国内外の展示会への積極的な出展や顧客ニーズに合わせたカスタマイズ装置の提供によるラインナップの拡充を通じて、付加価値の高い技術サービスや製品の強化を図りました。

中国や韓国などのアジア市場における設備投資の需要増により、足元の受注は回復傾向にあります。また、重要市場であるインドでは自動車関連産業を中心に多国籍企業が集積するチェンナイに支店を開設し、市場拡大に向けて技術サポート体制の強化を図りました。

一方で、ダイカスト事業においては、受注状況は改善傾向にあるものの、原価率の高止まりや物流コストの上昇等の影響により、事業環境は依然として厳しい状況にあります。

この結果、産業機器事業全体の売上高は3,001百万円（前年同期比602百万円増）、営業損失は、ダイカスト事業の厳しい状況が影響し、458百万円（前年同期は営業損失271百万円）となりました。

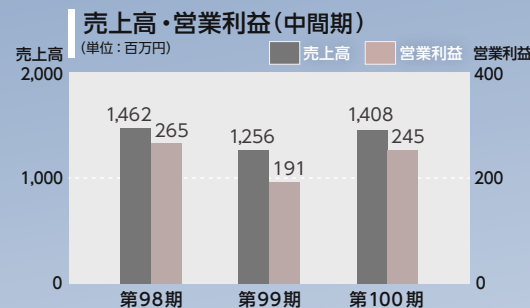


エレクトロプレス  
JPシリーズ55(30t)



## IT 関連事業

ITソフトウェア開発・情報処理サービス・  
システム運用管理の受託



ITソフトウェア開発や情報処理サービス、システム運用管理においては、顧客のIT投資におけるニーズに対応するとともに、顧客との円滑なコミュニケーションや品質管理の徹底による生産性の向上を図り、顧客満足度の向上に努めました。新規顧客の開拓にも取り組むとともに、安定した受注を確保したことで、業績は堅調に推移いたしました。

この結果、IT関連事業の売上高は1,408百万円（前年同期比151百万円増）、営業利益は245百万円（前年同期比53百万円増）となりました。



## 連結貸借対照表 [ 要旨 ]

(単位：百万円)

| 区 分     |                | 当中間期<br>2025年9月30日 | 前 期<br>2025年3月31日 |
|---------|----------------|--------------------|-------------------|
| 資産の部    | 流動資産           | 26,672             | 25,860            |
|         | 固定資産           | 17,738             | 18,577            |
|         | 資産合計 <b>1</b>  | 49,383             | 49,629            |
| 負債の部    | 流動負債           | 7,344              | 7,146             |
|         | 固定負債           | 6,806              | 7,040             |
|         | 負債合計 <b>2</b>  | 14,150             | 14,187            |
| 純資産の部   | 株主資本           | 23,860             | 24,396            |
|         | その他の包括利益累計額    | 10,494             | 10,163            |
|         | 非支配株主持分        | 876                | 882               |
|         | 純資産合計 <b>3</b> | 35,232             | 35,442            |
| 負債純資産合計 |                | 49,383             | 49,629            |

## 連結損益計算書 [ 要旨 ]

(単位：百万円)

| 区 分                 | 当中間期<br>2025年4月1日から<br>2025年9月30日まで | 前年同期<br>2024年4月1日から<br>2024年9月30日まで |
|---------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 売上高                 | 17,487                              | 17,981                              |
| 売上原価                | 10,625                              | 10,640                              |
| 売上総利益               | 6,862                               | 7,341                               |
| 販売費及び一般管理費          | 6,456                               | 6,430                               |
| 営業利益                | 406                                 | 910                                 |
| 営業外収益               | 151                                 | 150                                 |
| 営業外費用               | 227                                 | 316                                 |
| 経常利益                | 330                                 | 745                                 |
| 特別利益                | 33                                  | 32                                  |
| 特別損失                | 386                                 | 12                                  |
| 税金等調整前中間純利益         | △21                                 | 765                                 |
| 法人税等                | 400                                 | △40                                 |
| 非支配株主に帰属する<br>中間純利益 | 3                                   | 29                                  |
| 親会社株主に帰属する<br>中間純利益 | △426                                | 776                                 |

## 連結キャッシュ・フロー計算書 [ 要旨 ] (単位：百万円)

| 区 分                       | 当中間期<br>2025年4月1日から<br>2025年9月30日まで |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー <b>4</b> | 188                                 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー <b>5</b> | △68                                 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー <b>6</b> | △436                                |
| 現金及び現金同等物の当期末残高           | 6,875                               |

## POINT

**1 資産の部**

流動資産は商品及び製品の増加、原材料及び貯蔵品の増加等により前期末に比べ812百万円増加いたしました。固定資産は土地の減少、繰延税金資産の減少等により前期末に比べ1,058百万円減少いたしました。

**2 負債の部**

流動負債は、支払手形及び買掛金の増加、未払法人税の減少等により前期末に比べ197百万円増加いたしました。固定負債は、長期リース債務の減少、再評価に係る繰延税金負債の減少等により前期末に比べ234百万円減少いたしました。

**3 純資産の部**

利益剰余金の減少、為替換算調整勘定の増加、土地再評価差額金の減少等により前期末に比べ209百万円減少いたしました。

**4 営業活動によるキャッシュ・フロー**

棚卸資産の増加645百万円、仕入債務の増加508百万円などにより、188百万円の資金の増加となりました。

**5 投資活動によるキャッシュ・フロー**

有形固定資産の取得による支出138百万円、有形固定資産の売却による収入241百万円、関係会社株式の取得による支出101百万円などにより、68百万円の資金の減少となりました。

**6 財務活動によるキャッシュ・フロー**

短期借入金の増加80百万円、配当金の支払額452百万円などにより、436百万円の資金の減少となりました。

ボビナージュファミリー

## Bobinage famille新潟をオープン(10月3日)

Bobinageは、「手づくりの楽しさをもっと身近で感じていただくための、気軽に立ち寄れる場所」をコンセプトとして2012年に開設して以来、多くの皆様にご利用いただいています。今回オープンした新潟店は、吉祥寺(東京都武蔵野市)、溝口(神奈川県川崎市)、神戸元町(兵庫県神戸市)に続く4店舗目となります。

Bobinageでは、今後も皆様にお楽しみいただける様々なワークショップや手づくりを応援する各種サービスを提供します。

当社の長期ビジョン「つくる歓びを伝える会社」の実現に向けて、さらなる体制強化に努めていきます。



Bobinage famille 新潟の店内

ソーイング・マルシェ

## 公式オンラインショップ「Sewing Marché」を開設(9月9日)

Sewing Marchéでは、オンラインで当社のミシンやアクセサリ、ソーイングアイテムなどを購入でき、日本全国どこからでも、いつでもお買い物をお楽しみいただけます。これにより、当社製品のさらなる普及とお客様満足度の向上を目指していきます。

ショップサイト：<https://shop.janome.co.jp/>

## 2025年度グッドデザイン賞受賞

現在発売中のロックミシン「MYLOCK 454D Sailing Line(779B型)」が、公益財団法人日本デザイン振興会主催の「2025年度グッドデザイン賞」(Gマーク)を受賞しました。

### グッドデザイン賞 審査委員の評価コメント

新規性はデザインを評価する上で重要な要素だが、デザインにおいては単なる見た目の新しさを指すとは限らない。このミシンは、これまで培われてきたデザインの流れを踏まえつつ、可能なものは改良しながら素直に機能を形にしているように見える。大きな差異がない様でそこかしこに工夫が見られるデザインは、時の中で確実にアップデートされており、小さな積み重ねであっても、まごうことなく新しい。



MYLOCK 454D Sailing Line

## インド産業機器販売会社「JIE-India」業務開始(4月)とチェンナイ支店開設(7月)

これまで当社は、インドにおける産業機器製品の販売および技術サポートを、現地の代理店に委託し拡販を図ってきました。今般、経済発展が期待されるインドに販売会社を開設し、現地での営業活動および技術サポートを強化するとともに、新たな代理店の開拓を推進していきます。

また、販売網構築の第一歩として、インド国内の自動車関連産業への販売サポートを強化するため、自動車関連産業を中心に多国籍企業が集積するチェンナイに販売拠点(支店)を開設しました。

引き続き、産業機器製品のさらなる売上拡大を図っていきます。



チェンナイ支店



## 「日経・東証IRフェア2025」に出展

(9月26・27日 東京ビッグサイト)

本展示会は、上場企業と個人投資家が直接対話できる場として開催され、当社ブースでは、ミニ説明会や投資家の方々と直接意見交換を行いました。事業内容や中期経営計画等を掲示した壁面や、ミシン製品の展示、刺しゅうミシンで製作した「JANOME」ロゴ入りユニフォームの着用など、当社への理解を深めていただけるような工夫を凝らしました。

また、9月27日(土)には、当社代表取締役社長 齋藤が講演会場にて事業内容や今後の取り組みについて説明を行い、会場は満席で立ち見が出るほどの盛況な会となりました。本講演はアーカイブ配信でもご覧いただけますので、ぜひご視聴ください。



ミニ説明会の様子

日経・東証IRフェアのアーカイブ配信：  
[https://www.youtube.com/watch?v=tA5\\_hBiy89Q](https://www.youtube.com/watch?v=tA5_hBiy89Q)

## 統合報告書2025 (JANOME REPORT) を発行 (10月2日)

本報告書では、トップメッセージや中期経営計画、長期ビジョンをはじめ、各事業責任者のコメントや社外取締役の座談会、財務・非財務情報、サステナビリティへの取り組みなどを網羅的に掲載しています。当社の現状と未来への展望を簡潔にまとめた内容となっております。ぜひご覧ください。

統合報告書 2025 (JANOME REPORT) :  
[https://www.janome.co.jp/ir/ir\\_janome\\_report.html](https://www.janome.co.jp/ir/ir_janome_report.html)



## 中期経営計画「Move! 2027」

当社は、2025年5月からスタートした中期経営計画「Move! 2027」において、「これからの 100 年に向けた持続可能な成長 (SUSTAINABLE GROWTH for the NEXT 100 YEARS)」を基本方針に掲げています。この方針のもと、各事業の競争力強化と企業価値の持続的向上を目指して取り組んでおります。また、数値計画を達成するため、事業別戦略を着実に推進するとともに、財務、ガバナンス、人財などの基盤整備において実効性を追求してまいります。

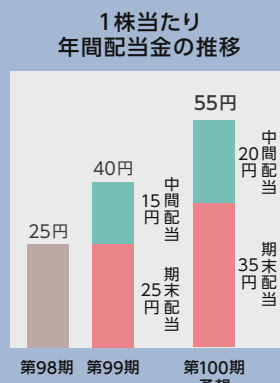
また、本中期経営計画にて、表紙にあります「つくる喜びを伝える会社」という長期ビジョンを設定いたしました。

当社ウェブサイト (中期経営計画) :  
[https://www.janome.co.jp/ir/management\\_plan.html](https://www.janome.co.jp/ir/management_plan.html)



## 株主還元

当社は、配当方針に基づき累進配当を意識し、DOE (株主資本配当率) 3%以上、かつ連結配当性向 40%以上を目安に配当を実施してまいります。第100期においては、中間配当として 20 円を実施し、期末配当は 35 円を予定しております。これにより、年間配当は前年より 15 円増加の 55 円となる見込みです。また、資本市場の動向を踏まえ、2028年3月までの期間において機動的な自己株式の取得も実施いたします。今後も株主の皆様へ、利益還元の充実に努めてまいります。



## 会社概要 (2025年9月30日現在)

|        |  |
|--------|--|
| 商号     | 株式会社ジャノメ   |
| 英語表記   | JANOME Corporation                                 |
| 創業     | 1921(大正10)年10月                                     |
| 設立     | 1950(昭和25)年6月                                      |
| 資本金    | 113億7,300万円  |
| 連結従業員数 | 2,394名   |
| 本社     | 〒193-0941<br>東京都八王子市狭間町1463番地<br>TEL: 042-661-3071 |

## 株主メモ

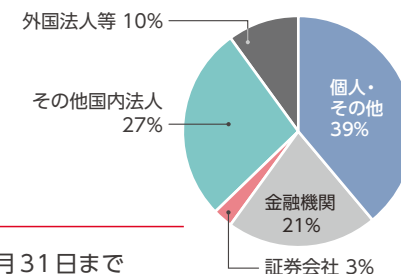
|                          |   |
|--------------------------|---|
| 事業年度                     | 毎年4月1日から翌年3月31日まで   |
| 定時株主総会                   | 毎年6月下旬  |
| 基準日                      | 毎年3月31日   |
| 株主名簿管理人及び<br>特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号<br>三井住友信託銀行株式会社   |
| 同連絡先                     | 〒168-0063<br>東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>三井住友信託銀行株式会社 証券代行部<br>TEL: 0120-782-031 (フリーダイヤル)<br>取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。   |
| 公告の方法                    | 電子公告<br><a href="https://www.janome.co.jp/">https://www.janome.co.jp/</a><br>ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 |

## 株式の状況 (2025年9月30日現在)

発行済株式総数 18,108,605株  
株主数 12,297名  
(前期末比760名減)

### 株主構成比率 (所有株式数ベース)

※個人・その他には、自己株式24株を含んでいます



## 株式のお手続き等についてのご注意

- 住所変更等、弊社株式に関するお手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) にお問い合わせください。
- 特別口座の株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、上記連絡先にお問い合わせください。

発行日: 2025年11月28日

UD FONT 本誌は、見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。